

(別添3)

## 【白山市】 校務DX計画

GIGAスクール構想に基づき、本市では令和3年度よりワーキングチームを設置し、ICT活用による学校現場での校務DXを推進してきた。特に、日々の発出文書や保護者からの欠席連絡のデジタル化、「Microsoft Teams」を活用したコミュニケーションや各種データの共有、中学校におけるデジタル採点システムの導入、各校の好取組事例などを横展開しながら、教育委員会として周知をしてきた。

その結果、令和6年度の「GIGAスクール構想の下での校務のDX化チェックリスト」では、例えば「児童生徒の欠席・遅刻等のデジタル化：約89%」「保護者への調査・アンケートのクラウド化：約93%」「児童生徒への調査・アンケートのクラウド化：約82%」「職員会議資料のクラウド活用：約82%」など、従来アナログで行ってきた業務のデジタル化が進展している状況である。一方で、本市の課題として以下の点が明らかになっている。

### 1 校務DX化の課題

- ・保護者向けにおいては、業務時間外の問い合わせや保護者からの提出資料、説明会や面談の日程調整、オンライン化などは十分に進んでいるといえない。
- ・児童・生徒向けにおいては、各種連絡の配信・宿題の実施や採点・小テスト等でのC B T活用が課題である。また、端末の持ち帰りも毎日持ち帰っているのが7.7%と、県内他市町に比べて低い結果である。
- ・それ以外の業務においては、授業研究や校内研修でのクラウド活用やハイブリッド実施、教職員が紙で提出する必要がある書類、F A Xや押印等の使用など、改善が必要なものが明らかとなっている。

### 2 校務DX化の今後の対応

#### ・更なるクラウドの活用

保護者や学校の利便性、業務の効率性などにおいて、クラウド活用に対するニーズが高まっており、教育委員会としても様々なサービスに関する調査が必要である。グループウェアのより効果的な活用を進め、ファイルの共同編集やチャットの活用など、様々な場面でコミュニケーションの円滑化や効率化を図っていきけるよう、学校にも指導・助言していく。なお、「校務DXを促進するための取組に関する参考資料」にある、「教職員の働き方の改善に対する効果実感が高かった取組事例」を参考に、他市町における実際の効果を具体的に示していく必要がある。各校でのDX化について、何の業務で進めるかを明確にし、その後押しをしていきたい。

#### ・業務の見直しや削減

上記、F A Xや押印など、一部の業務においては、デジタル化が進んでいない。また、教育委員会から学校へ行う調査なども、クラウドを活用した形態になっていないものが多く残っている。まずは、教育委員会が主導的役割を果たし、業務の在り方の見直しや抜本的な削減を行うことで、これからの教職員の働き方像を構築することが必要である。